慈　恵

令和４年　No.79

夏

宗教法人 慈 恵 院　　付属 多摩犬猫霊園

鑑賞

一華五葉開

禅宗の開祖達磨のことばと言われている。
正法（正しい教え）が開かれると、
世の中に広まっていくという意味です。
実際、後に禅宗は五派に分かれ隆盛をなした。

柳瀬 有禅

大正五年生まれ　宮崎県高千穂出身
昭和二十五年に奥多摩の是々庵加藤耕山の室に入る
三十八年に是々庵の印記を受ける
皎圓寺住職・法燈禅林師家　平成七年遷化

※法燈禅林は現在も慈恵院雲水の修行道場とさせていただいております。

古寺めぐり（1）
―法隆寺―

渡来した仏教文化が最初に花開いた斑鳩法隆寺は今もいにしえのたたずまいを遺している。

奈良県生駒郡斑鳩の里に建つ聖徳宗総本山法隆寺。世界最古の木造建築をのこし、永遠の微笑をたたえる古仏たちが会する。１９９３年（平成５年）日本で最初にユネスコの世界遺産に登録された寺である。

五重塔と金堂

法隆寺は、聖徳太子が用明天皇の病気平癒を願って造営したもので、金堂の薬師如来像光背の銘文によると６０７年に完成した。『日本書記』によれば６７０年に全焼し、現在の伽藍は７世紀末から８世紀初めの再建とされる。

法隆寺は五重塔や金堂のある西院伽藍と夢殿を中心とする東院伽藍に分かれる。西院伽藍は塔と金堂が左右に展開する「法隆寺式」とよばれる伽藍配置である。

建物のうち世界最古の木造建築である金堂など55棟が国宝・重要文化財。仏像は釈迦三尊・救世観音・百済観音などが国宝に指定され、仏像彫刻だけで６５０体を数え、まさに世界の至宝というにふさわしい。

金堂の壁画は１９４９年（昭和24年）の火災で焼損したがこれを契機として翌年には文化財保護法が制定されている。

夢殿

法隆寺は斑鳩寺・法隆学問寺ともよばれ各宗兼学の道場でしたが、１９５０年（昭和25年）法相宗から独立して聖徳宗を開宗した。

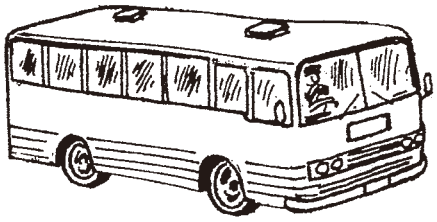
〈所在地〉
奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺山内１－１
〈交通〉ＪＲ法隆寺駅から徒歩15分

※小学館「古寺をゆく」参照
次回は東大寺

世迷言

むさしさかい動物病院
院長 伊藤 健

昨夏の夜、私が体験したこと。
生暖かい風が吹く通りを一人仕事から帰宅する途中、それを見た。
通りの向こうから『回送』と表示されたバス。
通りすがりにふと中を見た。



乗客は乗っていないはずなのに、長い髪の女性がたった一人ポツンと席に座る姿を、見た。
これは紛れもない事実である。

…この文章から皆さんは何を思い描かれましたか？
実は帰り道にすれ違ったバス、女性の運転士さんが夜風に髪をなびかせて走っていたという話でした。

言葉や情報は、発信する側の表現の仕方ひとつで受け手に異なる伝わり方をします。
この2年余り、ワイドショーの新型コロナ情報に振り回されたり不安に駆られたり私自身も苦労しています。
このところのロシアのウクライナ侵攻もそうです。（客観的な情報を得られないロシア国民は、それ以前の問題ですが。）
巷に溢れる玉石混合の情報を、ただ受け取るだけではなくきちんと理解して自分なりに評価する事の大切さを痛感します。

動物が病気になり治療法に迷った時も然りです。
いろいろな治療法があったり、その子により良いケアの仕方が見つかるかも知れません。
治療費をかけたから全てにおいて正しい、とは限りません。
動物の場合は本人の意見は聞けないので家族が納得できるか否か、です。
何事も、一旦立ち止まって深呼吸して俯瞰して見てから判断するのも大切だと思います。
人も動物達も…命の大切さに想いを馳せる春です。

読者コーナー

今年も一緒にお花見をするよ。

西東京市　穂積　俊宗（58）

「犬飼ってもいい？」妻からメールが来たので、「いつ買うの？」と返したら、「もう家に来ちゃった！」とダンボールに入って耳を立てて細長い顔を出しているコーギーが写っていた。彼女との突然の出会いである。

食卓にあった粒ガムの容器を見て、「ミントがいいんじゃない」と何気ない子供の一言で、爽やかで可愛らしい名前が決まった。

家の中では、障子や壁、階段をかじったり、畳を掘ったり、家中を縦横無尽に走り回る、鼻筋の通った気品のあるお転婆娘だった。

外に出ると公園や家の駐車場などでボールを追いかけて遊んだり、人懐っこく、すり寄っては、「ミントちゃん笑ってるぅ」となでなでしてもらい、ご機嫌になっていた。

イケメンが好きで動物病院の先生には診察や注射にも黙って言うことを聞き、ボーイフレンドと散歩するときは、家族にも見せたことのない笑顔を振りまいて楽しんでいた。

私がケガで近くの病院に入院した時には、窓から見える道路まで散歩で来て元気づけてくれたり、通勤で乗車している電車に、家の前から毎朝見送ってくれた。

誰が帰ってきても足音や自転車の音で気づいて玄関に駆け寄り迎えてくれた。いつからか「オカアサン」「オトウサン」と話す（聞こえる）ようになり、一層愛おしくさせた。

早く帰宅した日に、散歩がてら近くの陸橋まで妻の帰りを迎えに行くのが楽しそうだった。

家族の中心であり、太陽みたいに輝いていたミントが、今年に入ってから体調が悪くなり、十三歳の誕生日から一週間後、東京で桜が開花したその日にお別れすることとなった。

毎年、庭の桜で一緒にお花見をしていたミント。今にも咲きそうなピンクの蕾の一枝を、穏やかな寝顔のそばに、お花と一緒に添えてあげました。来世でも満開の笑顔で咲き誇り、誰からも愛されますよう願いを込めて。

出会ってくれてありがとう、ミンミン！

寄る年波と残された時間

武蔵野市　田沼　利香（40）

我が家の愛猫ナオは出会った頃はフワフワの毛並みを風に遊ばせた、全身真っ黒のザ・黒猫といった感じの堂々たる風格の猫でした。毛の一本一本は真っ黒なのに地肌が白いのが面白くてよく寝込みを襲い、お腹の毛をかきわけて遊んでいました。

ずっと一緒にいるとなかなか変化には気付かないものですが、ある日家の中で一番日当たりの良い場所でまどろんでいるナオの背中が焼き過ぎたパンのような色になっているのに気付きました。よくよく観察すると尻尾の先まで焦げパン色でした。猫も加齢とともに毛の色が抜けてくるようです。

年とともにちょっとずつ外見が変化してきたナオですが、性格も変わってきたような気がします。昔は食べては寝て、食べては寝て、私達のことは食事を催促する以外は見向きもしませんでした。年と共に食事量は減り、寝ている時間も長いですが人恋しく感じるようになってきたみたいです。往年の真っ黒な毛並みは失われつつありますが風に遊ぶフワフワ感は健在です。ナオが年を取ってきたことは切ないことですが自分に夢中であった若い時より現在の方がコミュニケーションを取っているように思います。最近では私達より格段に時計の進みが早いナオとの時間を楽しみながら過ごすようにしております。